

事務事業事後評価シート[平成27年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	企画部政策企画課		■担当係	政策推進係
■評価事業名称	北上横手地域開発促進協議会負担金(事務局事務含む)			
■事業開始年度				
■評価事業コード	010100 - 160	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	06 市民が主役となり企業や行政と協働するまちづくり		
	■基本施策	06 広域行政の推進		
	■施策	01 広域行政の推進		
■事業の類型	06 負担金・補助金(任意・ソフト事業)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称				
■関連計画の名称				
■事業の目的と概要	北上横手地域の交通等基盤整備を行い、利便性の向上を図り、地域の活性化に資する。総会、幹事会、平和街道サミット、県際交流事業(北上線で行く冬満喫ツアー)の開催			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成27年度事業計画	平成27年度事業量実績
01	北上横手地域開発促進協議会負担金(事務局事務含む)	協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○幹事会2回 ○総会・平和街道サミット1回 ○担当課長会議1回 ○北上線活性化関連事業2回 	<ul style="list-style-type: none"> ○幹事会2回 ○総会・平和街道サミット1回 ○担当課長会議2回 ○北上線活性化関連事業1回(横手かまくらツアー)○JJR東日本に対する要望1回

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	備考
直接事業費	98	112	126	119	
人件費	551	2,138	1,808	1,415	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	649	2,250	1,934	1,534	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	24年度	25年度	26年度	27年度	指標の説明
01	県際交流事業の実施	秀衡街道沿線マップ発行 北上線で行くツアー実施(1回)	北上線で行くツアー実施(1回)	北上線で行くツアー実施(2回)	北上線で行くツアー実施(1回)	昨年度から継続して秀衡街道事業に取り組み、ルートの推定及びツアー等を実施した。
02	平和街道サミットの実施	平和街道サミット1回	平和街道サミット1回	平和街道サミット1回	平和街道サミット1回	

事務事業事後評価シート[平成27年度事業]

03	JR北上線の利用者数	0.99	0.95	88.4	H27利用者数未発表(JR)	今年度実績÷前年度実績 H26年は上下各1本減便
----	------------	------	------	------	----------------	-----------------------------

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

総会で決定した事業内容を予定通り実施したものの。北上線活性化事業についても参加者多数に及び抽選になる等一定程度の成果を得た。

問題点・課題等

当該協議会と岩手秋田県際交流事業実行委員会の所掌事項に重複する部分があり、今後の会に在り方について結論出す必要がある。JR北上線の利便性向上と利用者数の確保が同線の維持には欠かせないが、利用者数が減少している。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 事業廃止の影響

- 大きな不利益やリスクが生じる
- ある程度の不利益やリスクが生じる
- 不利益やリスクは小さい

3. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

4. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

5. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

6. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

7. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

8. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

9. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策

当該協議会と機能で一部重複するJR北上線利用促進協議会との役割分担について、今年度中に関係団体と協議の上、明確にする。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了